

わんぱくフェスティバルを終えて…

わんぱく☆フェスティバルのご参加ありがとうございました。庭の木やツリーハウスなどを利用した内容を予定していたのですが、雨のため叶わずでした。しかし、子ども達は、いつもと同じように、楽しんでいたと思います。何より、お父さん、お母さん方の応援が、自己を発揮し自信につながったことでしょう。引き続き、子ども達の心や体の発達を促す園庭の整備を図り、『子どもが主体』の教育、保育を進めていきます。

役員のみなさまには、早朝から最後の片付けまで、お手伝い下さりありがとうございました。

木を植えるということ…

平成30年の1月から、この5月までに、大小合わせて20本の木を植えました。本来なら、庭の真ん中の樺(けやき)の様な大きな木を植えたいところですが、造園業者の方も確保が難しく、なかなか思い通りに植えられないジレンマがあります。『なんで木を植えるの?』と尋ねてきたR君に、『木があると良いことがいっぱいあるよ』と答えたら『虫がくるね』、『葉っぱの下に幼虫とダンゴ虫が出るね』『木登り』…。などと次から次に出てきました。連休前に私が、木陰のベンチに座っていたらまたこのR君が『しあわせだね…』と隣にちょこんと腰掛けるのです。木陰で涼む私に直感的にかけてくれた言葉です。どうしたらこんな素敵な言葉が出るのでしょうか?

木の緑は、目にも優しく癒されます。またその精気をもらえるような気がします。虫探し、夏の木の下で感じる風、匂い…。R君は、四季折々の木の姿からたくさんのことを感じ学んだと思います。身近な木の存在が感性を育てたのではないかなと思うことでした。

枝を伸ばし花を咲かせ、葉を茂らせ実をつけ、大木に成長するまでに何十年という年月を要します。木を植えてもこの子ども達は、それを見ずに卒園していきます。大木になる頃には、自分の子ども達を連れて、園に来てくれるかも知れませんね。その頃はきっと私は、いないでしょう。それでもまた、木を植えるということは、現在だけではない将来にわたる自然の財産と思いを子ども達に残す事だと思のです。

遠回りしてもいいよ…

『ぼんやり見えている目標やはっきりと決めた目標に向かう、一番の近道は遠回りです。』現役最後のあの日、イチローが語った名言の一つです。あのイチローでさえ、目標に直結する道は通らず、あえて遠回りをしてひとつ、ひとつクリアしたそうです。『遠回りは、無駄ではない。一番の近道』これを生放送で見ていた私は、子どもの学びと同じだと思いました。

子ども達は、自分で遊びを見つけていろいろなことに挑戦します。例えば、木登りやなわとび。友達のようにやってみただけで上手い出来ない…次の日も次の日も挑戦する子ども、忘れたかのように二度としない子ども。例えば、ばなな組さんの真似をして、素敵なバックをつくりたい、積み木で大きなお城をつくりたい。そんな思い(目標)をきくと子ども達は、言葉に出さなくても持っていると思うのです。すぐにはそうならなくても、泥んこやままごと、手先をつかう遊びをたくさんして、あるいは凸凹の庭を裸足で遊ぶことで、心や身体能力、手先の器用さが自然とついてくると思います。子どもひとりひとりの興味や関心を持つ時期が違うように、達成時期も違います。私達は、個々の子ども達の『遠回り』に寄り添っていきたいと思います。